

## 16 もくぞうあみだによらいぎぞう 木造阿弥陀如来坐像



指定 県 宝 昭和34年11月9日  
 所在地 岩 村 田 寺  
 所有者 西 念 寺



材・寄せ木造り・漆箔・螺髪彫出し、定印の阿弥陀如来坐像で、浄土宗一行山西念寺本尊である。伏し目がちで切れ長の半眼や、両相、胸部の優麗な趣など、すべてが平安時代末期（12世紀末）の定朝様を示す半丈六の弥陀坐像で、県下における佳作である。

衣紋の彫法にわずか中世の補修の跡を残すが、像底板張りには「本尊弥陀之像彩色之事」、「右彼再興之起者上原甚左衛門」、「永禄六竜集天卯月朔日」、「願主生蓮社岌往 相蓮社円誉」など、墨書修理銘が残っている。

法量は、像高130.29cm、頂～顎50.298cm、髪際～顎30.3cm、面幅25.149cm、面奥33.33cm、臂張り89.82cm、膝高19.695cm、膝張り116.049cm、膝奥67.569cmである。